令和6年度第1回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和6年7月24日（水）午前10時～午前10時50分

場 所：江別市民会館2階21号室

出席委員：三上真一郎委員、谷田川賢一委員、藤本直樹委員、田原久美子委員、
岸本佳廣委員、森田弘之委員、佐々木尚弘委員、坂本憲昭委員、
赤川和子委員、杉村勝彦委員（計10名）

欠席委員：萩原克郎委員、新田雅子委員、菊地達夫委員、小林徹男委員
（計4名）

事務局：伊藤企画政策部次長、四條健康福祉部次長、嶋中政策推進課長、
川村主査、北島主査

その他：ココルクえべつ事務局明石コーディネーター

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 会長の互選及び会長代理の指名

三上委員を会長として選出、三上会長より萩原委員を会長代理として指名

3 議事

（1）形成事業計画におけるKPI達成状況

資料1、参考資料に基づき事務局から説明

【質疑なし】

（2）地域交流の取組状況

資料2に基づき事務局から説明

【質疑】

○森田委員

地域交流事業について、様々な取組を積極的に行っており、大変すばらしいと思う。さて、質問になるが、地域交流事業における事務局側の体制について伺いたい。また、事業を実施するためには、KPIで掲げているボランティアの協力も不可欠だと思うが、ボランティアの活動とココルク事務局の連

携について、苦労した点やこれから改善したい点などについて、併せて伺いたい。

○ココルクえべつ事務局

地域交流事業については、ココルクえべつ事務局の中に常駐のコーディネーター、サブコーディネーターそれぞれ1名を配置するとともに、外部のコーディネーター3名を配置し、取組ごとに役割分担を行いながら、計画から実施まで担っている。

次にボランティアについては、市の事業であるジモガクと連携し、大学生に協力いただいている。また、介護事業所内では、ボランティア登録をいただいている方に車椅子の清掃などを担っていただいている。

改善点を挙げるとすれば、介護事業所内のボランティア活動に関して、利用者の方の話し相手になるなど、直接交流できるような取組を行っていただきたいと考えているが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、困難な状況が続いている点である。

地域交流事業に関する苦労などはなく、コーディネーターもボランティアの方と一緒に楽しみながら事業を進めている。

○藤本委員

地域交流事業の内容やKPIの状況などの説明を聞き、素晴らしい成果を上げており、全国的に誇ることができる場所や運営状況だと認識している。

こうした状況の中で、そろそろ本協議会の役割が終わろうとしていると思ひ、少し大きな話を市に聞いかけたい。

以前、協議会の中で、ココルクえべつで実践している取組を江別市全体に広げていくと説明があったかと思うが、現時点の状況はどのようになっているのか伺いたい。

○事務局

江別版「生涯活躍のまち」構想の中でも、生涯活躍のまちの考え方を市内全域に波及させていくと明記しているため、拠点地域である大麻地区のみで止まるつもりはない。

一方で、市域全域に波及させることは難しいとも考えている。地域交流事業については、1年目は試行錯誤の中で、2年目は前年度の取組をブラッシュアップし、3年目で様々な団体等と連携できるようになり、現在、ようやく軌道に乗ってきたと考えている。今後の展開について、具体的な方策が決まっているわけではないが、これまでの地域交流事業を継続しながら、構想

の実現に向けて努めてまいりたい。

○赤川委員

定期、不定期問わずこれだけの地域交流事業を3年間実施し、また、多くの方に参加いただいていることは、本当に素晴らしいことだと思う。

そのような中での質問になるが、定期イベントの実施回数について、例えば、もっと増やしてほしいなどの声に参加者から聞かれたりするか伺いたい。

○ココルクえべつ事務局

定期イベントの多くが月一回となっているが、これは、ココルクえべつ内で実施している回数であり、実際にイベントに協力いただけている団体は、それ以外の場所で同様の活動を行っている。

アンケート調査などではなく参加者からの聞き取りになるが、ココルクえべつのイベントに参加したことで、様々な場所で様々な団体が活動している実態を知ることができ、ありがたいとの声を聞いている。

(3) 江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会の在り方について

○田原委員

ココルクえべつ発足当初からかかわっているが、ここまで発展するとは思っていなかった。本当に素晴らしい成果を上げていると思う。

さて、市として、今後もこれまでどおり予算付けを行い、取組を進めていく予定なのか伺いたい。

○事務局

地域交流事業については、適切な予算を措置し、日本介護事業団と役割分担しながら実施している。来年度以降も一定程度の予算措置を行い、事業を実施していくつもりである。

○岸本委員

新しい協議機関は、ココルクえべつの中で行われることになると思うが、ほかの福祉施設を見てみると金銭面や体制などの問題から地域交流の取組を十分に実施できていないのが現状である。

そのような中、主体的な運営が移ることになり、ココルクえべつができるようにコーディネーターがしっかり配置され、実施できるのか不安に感じている。

○ココルクえべつ事務局

新しい協議機関については、現在の15名から若干少なくなることを想定しているが、引き続き、様々な方から多くの意見を聞きながら取組を進めていきたいと考えている。

これは、日本介護事業団として、ココルクえべつを取組を受けるための約束事項でもあるため、責任を持って実施していきたい。

○事務局

地域再生協議会は、地域再生法に基づく法定協議会であったが、説明したとおり一定の役割を終えたことから、今後は、今年度で区切りを付けて日本介護事業団からの提案に沿って新たな協議機関を設置する方向で調整を行っている。

市と日本介護事業団は20年間の協定を結んでいることから、引き続き、日本介護事業団とともに江別版「生涯活躍のまち」構想の実現に向けて努めてまいりたい。

4 その他

○三上会長

その他、何かあれば発言願う。

○事務局

次回の協議会は2月頃を予定している。事務局で検討の上改めて日程調整する。

5 閉会

以上